

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
(仮称)緑井6丁目マンション

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
Q 建築物の環境品質								3.2
Q1 室内環境			0.40					3.4
1 音環境		2.6	0.15	2.8	1.00			2.8
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40			
1.1.1 暗騒音レベル	RC造、T-1サッシにて音環境を制御	3.0	1.00	3.0	1.00			
1.2 遮音		3.0	0.40	3.7	0.40			
1.2.1 開口部遮音性能	T-1サッシを使用	3.0	1.00	3.0	0.30			
1.2.2 界壁遮音性能	コンクリート躯体としt=200に設定			4.0	0.30			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	遮音性に優れた防音タイプのフローリングを採用			4.0	0.20			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)	L-50以下			4.0	0.20			
1.3 吸音		1.0	0.20	1.0	0.20			
2 温熱環境		2.6	0.35	3.0	1.00			2.9
2.1 室温制御		3.0	0.50	3.0	1.00			
2.1.1 室温設定	冬季22℃、柿6℃を実現	3.0	0.63	-	-			
2.1.3 外皮性能	RC造、T-1サッシにて性能を確保	3.0	0.38	3.0	1.00			
2.1.4 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-			
2.3 空調方式	上下温度差等を配慮	3.0	0.30	-	-			
3 光・視環境		2.3	0.25	4.3	1.00			4.1
3.1 屋光利用		1.8	0.30	4.6	0.50			
3.1.1 屋光率	開口の大きいサッシを採用	1.0	0.60	5.0	0.50			
3.1.2 方位別開口	少なくとも1箇所は南、東に面した窓がある				0.30			
3.1.3 屋光利用設備	利用設備なし	3.0	0.40	3.0	0.20			
3.2 グレア対策		2.0	0.30	4.0	0.50			
3.2.1 屋光制御	庇と併せカーテンでも屋光を制御	2.0	1.00	4.0	1.00			
3.3 照度		3.0	0.15	-	-			
3.3.1 照度	100 lx以上	3.0	1.00	-	-			
3.4 照明制御	器具等で調整可能	3.0	0.25	-	-			
4 空気質環境		4.0	0.25	3.8	1.00			3.8
4.1 発生源対策		4.0	0.60	4.0	0.63			
4.1.1 化学汚染物質	内部仕上材、造作家具、クロス接着剤はF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	4.0	1.00			
4.2 換気		4.0	0.40	3.6	0.38			
4.2.1 換気量	換気風量の計算を満たす	5.0	0.50	5.0	0.33			
4.2.2 自然換気性能	居室面積の1/10以上の開閉可能な窓を設置			3.0	0.33			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	空気取入口は汚染源のない方位に設置	3.0	0.50	3.0	0.33			
4.3 運用管理								
4.3.1 CO ₂ の監視								
4.3.2 喫煙の制御								
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.2
1 機能性		3.4	0.40	3.6	1.00			3.5
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	4.0	0.60			
1.1.1 広さ・収納性								
1.1.2 高度情報通信設備対応	住戸内LAN配管対応とし、光ケーブル対応としている			4.0	1.00			
1.1.3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の基準項目の半分以上を満たしている	3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		4.0	0.40	3.0	0.40			
1.2.1 広さ感・景観				3.0	0.50			
1.2.2 リフレッシュスペース								
1.2.3 内装計画	共用部は高級感や美観に勤め、住戸は落ち着きと利便性を追及	4.0	1.00	3.0	0.50			
1.3 維持管理								
1.3.1 維持管理に配慮した設計								
1.3.2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性		3.0	0.31					3.0
2.1 耐震・免震		3.0	0.48					
2.1.1 耐震性	建築基準法に定められた性能を満たしている	3.0	0.80					
2.1.2 免震・制振性能	免震、制震装置なし	3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数		3.0	0.33					
2.2.1 躯体材料の耐用年数	等級IIに相当	3.0	0.23					
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	20年	3.0	0.23					
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	15年	3.0	0.09					
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	亜鉛鉄板を使用	3.0	0.08					
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	D以上を使用	3.0	0.15					
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔	15年	3.0	0.23					

2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	-
1	空調・換気設備	中央式設備ではない	3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備	節水器具を採用	3.0	0.20	-	-	-
3	電気設備	電源設備は地下に設けない	3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法	耐震クラスB	3.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備	管理室にMDFを備え、複数の光ケーブルを採用する	5.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性			3.0	0.29	3.1	1.00	3.0
3.1 空間のゆとり			-	-	3.2	0.50	-
1	階高のゆとり	階高2.9m以上	-	-	4.0	0.60	-
2	空間の形状・自由さ		-	-	2.0	0.40	-
3.2 荷重のゆとり			-	-	3.0	0.50	-
3.3 設備の更新性			3.0	1.00	-	-	-
1	空調配管の更新性	中央式空調設備ではない	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性	構造部材、仕上材を痛めず修繕が可能	3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性	構造部材を痛めず更新、修繕が可能	3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性	構造部材を痛めず更新、修繕が可能	3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性	主要設備機器の更新に必要なルートを確認	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペース	バックアップスペースは確保されていない	3.0	0.22	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	2.9
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	古川緑地に向けて開かれたエントランスポーチが地域に貢献	4.0	0.50	-	-	-
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.5
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.5
1 建物の熱負荷抑制			5.0	0.40	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用	2方向採光、通風を確保	3.0	0.50	-	-	-
2.2	自然エネルギーの変換利用	取組みなし	3.0	0.50	-	-	-
3 設備システムの高効率化			4.9	0.40	-	-	4.9
4 効率的運用			-	-	-	-	-
4.1	モニタリング		-	-	-	-	-
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.0
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1	節水	節水コマの採用	3.0	0.40	-	-	-
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	-
1	雨水利用システム導入の有無	導入なし	3.0	1.00	-	-	-
2	雑排水再利用システム導入の有無	導入なし	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減			2.8	0.63	-	-	2.8
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	-
2.2	既存建築躯体等の継続使用	既存建物なし	3.0	0.24	-	-	-
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	地盤改良に高炉セメントを採用	3.0	0.20	-	-	-
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	陶磁器タイル、集成材	3.0	0.20	-	-	-
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	-
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	取組みなし	3.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.5	0.22	-	-	3.5
3.1	有害物質を含まない材料の使用	建材は有害物質を含まない材料を選定	4.0	0.32	-	-	-
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	-
1	消火剤	ノンフロン消火剤を採用	4.0	0.33	-	-	-
2	断熱材	ODP 0.01未満のもの使用	3.0	0.33	-	-	-
3	冷媒	ODP=0の冷媒使用	3.0	0.33	-	-	-
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	2.8
1 地球温暖化への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1	大気汚染防止	排出基準以下	3.0	0.25	-	-	-
2.2	温熱環境悪化の改善		2.0	0.50	-	-	-
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	-
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	-
2	汚水処理負荷抑制	排出基準を満たしている	3.0	0.33	-	-	-
3	交通負荷抑制	歩車道を分離しスムーズな運用で負荷抑制	4.0	0.33	-	-	-
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	-
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33	-	-	2.7
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
1	騒音	規制基準以下	3.0	1.00	-	-	-
2	振動		-	-	-	-	-
3	悪臭		-	-	-	-	-
3.2	風害、日照阻害の抑制		1.6	0.40	-	-	-
1	風害の抑制		1.0	0.70	-	-	-
2	日照阻害の抑制	日陰規制なし	3.0	0.30	-	-	-
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	-
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明は行わない	5.0	0.70	-	-	-
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	特に影響なし	3.0	0.30	-	-	-